



TITLE:

日本証券界の現状 (記事昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演および研究報告の要旨)

AUTHOR(S):

福田, 千里

CITATION:

福田, 千里. 日本証券界の現状 (記事昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演および研究報告の要旨). 経済論叢 1960, 86(2): 139-140

ISSUE DATE:

1960-08

URL:

<https://doi.org/10.14989/132771>

RIGHT:

經濟論叢

第八十六卷 第二號

労働市場論なき賃金論……………岸 本 英 太 郎 1

ブルック・ファーム……………穂 積 文 雄 19

イギリス革命における農業・

土地問題分析の視角……………尾 崎 芳 治 47

社会科学のひとつの立場……………出 口 勇 藏 61

《記 事》

昭和三十五年度京都大学経済学会大会における公開講演

および研究報告の要旨…………… 74

昭和三十五年八月

京 都 大 学 經 済 學 會

日本証券界の現状

福田 千里

いわゆるピープルズ・キャピタリズムの合言葉のもとに、戦後の証券界は飛躍的な変貌、発展を遂げた。これは戦争によってもたらされた最大の経済的变化の一つであろう。すなわち今日の証券市場は、戦前の一部資産家や玄人筋のための投機市場から投資大衆のための投資市場へと脱皮し、これら大衆資本の動員による産業資金調達の間としてその機能、使命を果たしつつある。

この様に著しく拡大、発展をみつつある証券界にもなお問題がないわけではなく、証券業の職能分離、社債の流通市場、外

記事

資の導入等いずれも今後慎重に研究、対処せねばならないものである。このうち外資導入の問題については、昨年の戦後最初の外貨債発行を機に米国の対日投資の気運が頗に盛り上がりつつあり、証券投資視察団の来日等その前途は明るいものがあるが、これが実現のためには引続き官民一致しての努力が必要であらう。

なお、今や証券界は、前述の通り、日本経済の目ざましい発展と共に、金融界と肩をならべて長期資本調達の場合としてその重要性は益々高まりつつある。この様な情勢のもと証券界としては優秀なる青年諸君がどしどし斯界に進出されることを望む次第である。

(大和証券社長)